

2022

令和4年

新春号

A-TiC

広報誌エーティック・プレス

PRESS

株式会社 エーティック

SINCE1973

コミュニケーションの大切さを忘れずに

新年明けましておめでとうございます。

猛威を振るったコロナ禍もようやく終息の気配を見せ始めていますが、変異株の発生など、まだまだ油断のできない状況が続いています。皆様もくれぐれもご自愛くださいますようにご祈念申し上げます。令和4年度の公共事業予算案が決定し、今後国会での審議となります。春先にはまた例年と同様の忙しさとなりそうです。営業・技術ともに気を引き締めて備えているところです。昨年は、コロナ禍による緊急事態宣言により、営業活動や打ち合わせ等かなり制限がかかりました。宣言解除後、企業活動も徐々に「日常」を取り戻し、皆様と対面でお会いする機会も増えてきていますが、「3密」を避けるなど基本的な感染拡大防止対策は今後も継続していく必要があると思っています。今回のコロナ禍を経験し、痛感したことは、人とのコミュニケーションの大切さです。リモートやテレワークなどの動きは、今後も続くことでしょう。しかし、建設コンサルタント業は、お客様と会話し、意図をくみ取り、優れた業務を遂行することが目的であり、対面、リモートというのは手段でしかありません。目的を遂行するための最も効率的で効果的な手法を的確に選択する、ということが必要だと考えています。働き方改革やICTの活用など、新しい動きが本格化しています。それらの動きに的確に対応し、会社を発展させていくためには「人材」が欠かせません。人材の確保・定着については、一定程度できたかな、と自負しています。課題としては、人材を育て、磨き上げる30代～40代の中堅社員の負担が重くなっていることです。彼らが技術力を発揮し、会社の将来の財産となる若手を育てることができると職場環境作りが何よりも重要と考え、さまざまな取組を進めていく考えです。

新春を迎え、皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げますとともに、今年一年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



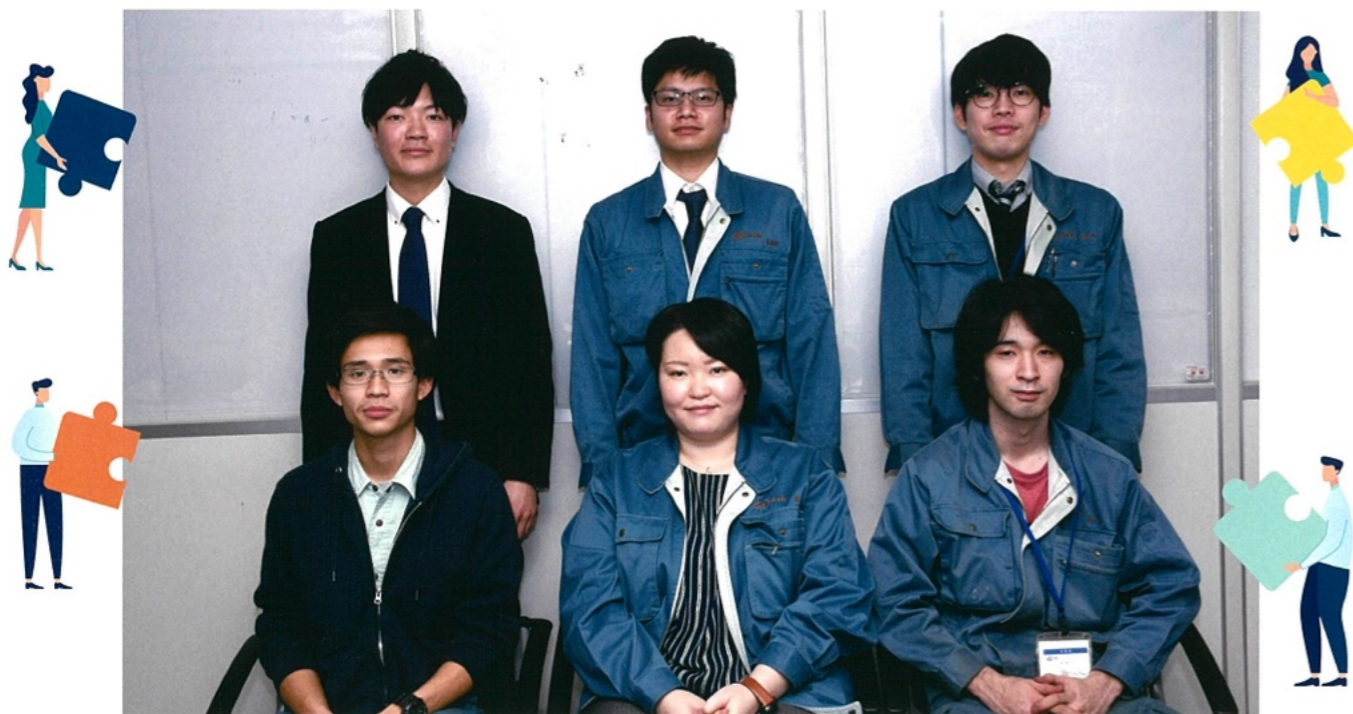
代表取締役社長 舟田 幸太郎



仕事のやりがい、目指す将来像は

～若手技術者による座談会を開催～

11月29日に、入社3～5年目の若手技術者6人による座談会を開催しました。当社に入社した動機や、仕事のやりがい、自身の将来像などについて、それぞれが日頃考えていることを発言しました。仕事の厳しさを感じる中、やりがいを見いだし、今後も成長を続けたいという思いが各自から伝わってきました。



・中村健太 (計測コンサルティング室副主幹) ・長谷川直紀 (調査部環境2課副主幹) ・佐々木準希 (設計部道路課副主幹)
・鳴海翔 (計測事業室副主幹) ・兼平藍璃 (設計部河川課副主幹) ・若山大斗 (調査部防災地質課副主幹)



1 この業界、エーティックに入ったきっかけ、動機など

佐々木準希 (入社4年目) 大学は文系だったのですが、父が建設関係の仕事をしていて、建設業は身近に感じていました。会社説明会で、担当の方がとても熱意のある方で「このような方達が働いている会社に入りたいな」と思い、入社を決めました。

鳴海翔 (入社5年目) 工業高校時代から、測量が好きで、授業でも楽しみでした。測量関係の仕事がしたくて、担任の先生に相談したところ、エーティックを勧められて入社しました。

長谷川直紀 (入社3年目) 京都の高校に通っていましたが、就職を考えていた時、北海道で働いていた父が札幌工科大学を勧め入学しました。その時に社会人専門実践教育で入学してきた鳴海さんに「うちの会社、いいよ」とお話しがあったので入社することになりました。

兼平藍璃 (入社4年目) 大学院生の時に、就職先として何社か受けたのですが、合同説明会や会社訪問で印象が強く、後輩もいたこともあって、大学の教授から推薦をいただいて入社となりました。

中村健太 (入社4年目) 合同説明会に参加し、コンサル関係の会社3～4社にアポイントを取って訪問しました。仕事の内容は大きく変わらないと思いましたが、訪問した時、「この会社すごく楽しそうだな」と思い、入社を決めました。

若山大斗 (入社5年目) 函館高専出身です。就職は正直あまり真剣に活動していませんでしたが、先生から「エーティックという会社はどうだ」と勧められ、担当者の方とお話すると印象も良くて、即入社しました。



2 今、どのように思って仕事をしていますか



若山大斗

若山 とにかく毎日が忙しいです。会社にいる時間はほとんどなく、全道の現場を飛び回っています。今はまず、目の前の仕事を一生懸命やることを第一に考えています。

中村 1年目に比べ、任せてもらう仕事も増え、少しずつですが成長しているかな、と感じます。でもまだまだ覚えることが多く、技術の基礎をしっかりと固め、応用力を持ちたいと思っています。

兼平 経験を重ねることで、できることが増えてきています。その一方で、できないことも分かるようになりました。的確に

答えてくれる上司を見ると、そんな技術者になりたいな、とあらためて思います。

長谷川 まだ指示を受けたことをしっかりとやることだけで精一杯かな、という状況です。一日も早く要領よく的確に仕事ができるようになりたいです。

鳴海 やれることは幅広くなったな、と感じていますが、もっと深みのある仕事ができるようになりたいです。先輩たちを見ながら、何が足りないのか、何をすれば良いのか、日々、自分に問いかけています。

佐々木 現場に行くのと知らないことばかりで、今も毎日が勉強です。これからは、まず知識を身につけつつ、それを現場で活かすことができるような技術者になりたいと思っています。



長谷川直紀



中村健太



3 やりがいとこれからの自分をどう考えるか



鳴海翔

鳴海 トンネル計測の仕事が中心ですが、検定官から「いい仕事だね」と言われた時が一番嬉しいですね。幼い2人の子供がいるので、大黒柱としてしっかりと働いて、給料も上がるように頑張っていきたいと思っています。

長谷川 他の部署の仕事を手伝うこともあります。まだどの分野の仕事をしてみたいのか、というのははっきりしていません。まずは、目の前の仕事をこなし、将来の自分が何をしたいのかを見極めることができればいいな、と思っています。

兼平 一番の目標は技術士の資格を取ることです。でも、資格取得に向けての勉強は大変です。日々の仕事をしながらの勉強となりますが、なんとか30代には取得したいな、と思っています。

中村 会社にどう貢献できるか、と考えています。今は上司や先輩に教えてもらったことを実行する、という立場ですが、30代になれば先輩として後輩を教える立場になります。聞かれたことにすぐ答えられるようになりたいです。

若山 30代になっても現場を飛び回っているのかな、と思います。皆が一つになって作り上げていく過程、完成した時の達成感は、格別のものがあります。エーティックの看板を背負って、少しでもいい仕事していきたいと思っています。



佐々木準希

佐々木 10年後の自分を考えると、日々きちんとやりがいを感じながら仕事をこなしている技術者になっていければ、と思っています。そのためにも、今を大切に、先輩の背中を追いかけ、技術を学んでいきたいですね。



兼平藍璃

平尾 俊雄

常識の上に挑み続けた技術者



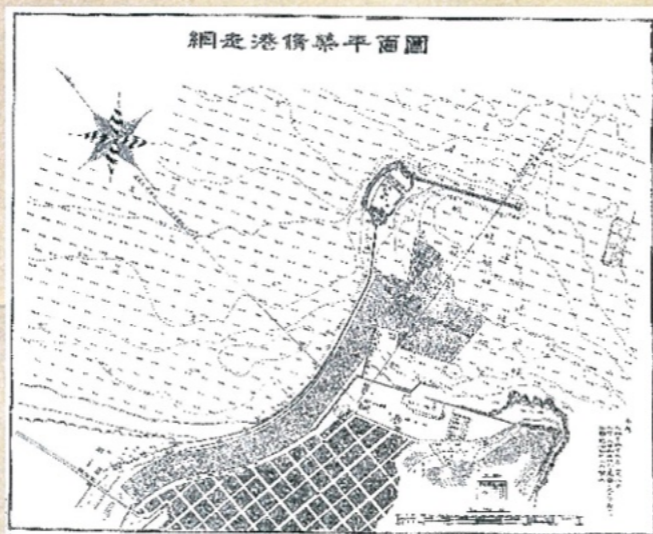
Toshio Hirao

「北海道港湾変遷史」より引用

天然の岩盤を切り抜いた珍しいケーソンドックが網走港にあります。港湾建設が北海道開拓に必須の事業だった時代、最先端の築港技術を学びながらも、常に新技術を探求し続け、奇抜なアイデアをも実現する実行力をもって困難な工事を乗り越えていく、平尾俊雄は困難に挑戦し続けた技術者なのです。

○平尾俊雄のおいたち

平尾俊雄は明治25年(1892年)富山県西砺波郡(現南砺市)に生まれ、大正5年(1916年)に東京帝国大学を卒業後、北海道庁でのキャリアを小樽港湾事務所からスタートします。当時所長の伊藤長右衛門の下、初代所長の廣井勇より受け継がれた築港技術の真髄を学びます。大正9年(1920年)に網走築港事務所が開設されると、所長として抜擢され、廣井勇を顧問とし、網走港防波堤工事建設に従事していくのです。



網走港平面図 (日本築港史より)



ケーソンドックの建設状況 (網走開発建設部築港課 提供)



帽子岩(左側)と網走川(右側)

○網走港の改修とケーソンドック建設の背景

当時の網走は豊かな漁場を有すものの陸の孤島状態で、安定した海上輸送交通は地域の悲願でした。明治20年(1887年)に外国人技師のC.S.メイクにより道内の要港調査と計画書が作成されます。網走港はまず大正5年(1916年)に避難港として修築され、大正8年(1919年)には本格的な港として工事が着手し、網走築港事務所が開設されます。

当時日本では、既にケーソンを利用した築港技術を取り入れていました。ケーソンとはフランス語で大きな箱を意味し、近代欧州の港湾技術として発展しました。明治以降の近代化日本へも導入されます。神戸港(初のケーソン式岸壁)、小樽港(初のケーソン式防波堤:以前紹介した小樽北防波堤は積ブロック式)の成功を経て、主流の築港技術となっていました。近隣との交通が不便な網走では、近場に大型ケーソンを製作できるドック建設は喫緊の課題だったのです。

○帽子岩ケーソンの導入

平尾は小樽港や留萌港の先例を検討し、自然の地形と地質を生かしたケーソンドックを計画します。ドックが建設された帽子岩はアイヌ語でカムイワタラ(神の岩)と呼ばれる円筒状の岩礁であり、安山岩岩脈の露頭を削って作られた施設です。網走川の流が土砂堆積を防ぎ、ドックとして機能することを確信しての計画で、建設費の縮減にも効果があったといいます。地形と地質を生かして防波堤に近接して作られた乾ドックであり、天然岩礁の平坦部を利用するという奇抜なアイデアは、「小樽港育ての親」と呼ばれた伊藤長右衛門を以ってしても採用を躊躇したとされています。



帽子岩ケーソンドックと北防波堤 (網走開発建設部築港課 提供)

○網走港修築の難工事と水理実験

大正13年(1924年)に帽子岩からの北防波堤建設を開始するものの、昭和2年(1927年)にオホーツク海の怒涛のような波浪に襲われ、建設中の防波堤が被災します。平尾は事業遂行の危機であった、と後に語っています。当時の状況を物語る痕跡が、北防波堤の千鳥に並ぶケーソンに確認できます。科学的根拠に基づく対応を迫られた平尾は水理実験を実施し、それまで性状が知られる程度であった揚圧力と波圧との関係を明らかにしました。結果はその後の防波堤の安全性を高め、この難工事にも打ち勝って現在の網走港の礎を築いたのです。帽子岩ケーソンドックは、これまで500函ものケーソンを製作し送り出した現役施設です。平成元年(1989年)に改築されますが、現在も岩盤を利用した形を残す、非常に貴重な施設なのです。



注水中のケーソンドック

○平尾俊雄の後半生

平尾は、函館港や稚内港、室蘭港など道内の主要な港湾整備に関わっています。また道庁の港湾課長時代には石狩港・苫小牧港の構想に関わりました。しかし、戦争が状況を一変させます。昭和14年(1939年)、日本軍が占拠した中国南部の海南島で鉄山が発見されると、最重要資源の調達のために海上輸送の拠点となる八所港建設が急務となりました。その工事技術責任者として白羽の矢が立ったが平尾だったのです。平尾は道内港湾整備や災害の経験で培った築港技術を駆使し、帽子岩と似た「魚鱗洲」という岩場でケーソンを製作し、脅威的なスピードで八所港を完成させました。引き上げ後は札幌で会社を設立し、海南島の引上げ者などの受け入れもしていたそうです。昭和33年(1958年)に67歳で急逝されるまで、道内の建設業界に多大な貢献されたのです。

○平尾俊雄と稚内港北防波堤ドーム

昭和3年(1928年)から稚内築港事務所長を兼務していた際、有名な稚内港北防波堤ドームの建設にも関わりました。奇抜なドーム屋根という基本構想や構造計画などを担当し、その後長い師弟関係となる後輩の土谷実がその詳細設計を担当しました。廣井勇、伊藤長右衛門と連なる道内港湾技術者のエリートとして活躍し、さらに後進へと技術継承を行うことのできた、稀有の技術者といえるでしょう。



井形 淳 設計部 技師長 工学博士/技術士(建設部門)

北海道開拓において、築港技術は輸送の要となる重要なものでした。海外から導入した技術を急速に昇華させ現場に還元する、先駆的挑戦が必要とされた時代でした。そんな状況に真っ向から取り組んだ技術者を紹介いたします。

1967年札幌市生まれ。1993年室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所を経て、建設コンサルタント会社に勤務。2015年(株)エーティック入社



公式 web サイトリニューアル完了!!
鋭意更新中です、ぜひご覧ください。



<http://www.a-tic.co.jp>



当社の公式ウェブサイトがこのほど、リニューアルしました! レスポンシブにも対応し見やすくなったと評判です。若手技術者が輝き、ベテランのエンジニアが活躍する会社の特徴をさまざまなコーナーで紹介しています。生まれ変わったエーティックをぜひご覧下さい。

北海道開発局長表彰を受賞 橋本局長から表彰状授与

2021年度北海道開発局優良工事等表彰式が10月4日に行われ、当社は「一般国道229号神恵内村キナウシトンネル補修設計外一連業務」で局長表彰を受賞。橋本幸開発局長から、舟田幸太郎社長と管理技術者として熊谷幹也が表彰状を受け取りました。

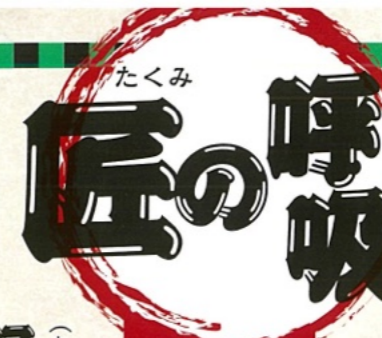
橋本局長からは「今回の受賞は、日頃から技術の研鑽に努めるとともに、家族の温かい支えがあったからこそ達成したものです。今後も技術力の向上の精励し、北海道発展のための北海道開発事業の推進に、我々と一緒に取り組んでいきましょう」とねぎらいの言葉をいただきました。

当社では、局長表彰という大変榮譽ある賞の受賞を機に、一層の技術の研鑽と創意工夫など努め、豊かで安全な地域社会の構築に貢献し続けていきます。



橋本局長から表彰状を受け取る舟田社長(左)と熊谷管理技術者(中央)。表彰後には幹部と記念撮影をしました(右)

多くの人との出会いが財産



完成時には感慨で一杯に



阿部 勇治さん
(計測事業室長, 59歳)

平成元年11月にエーティックの前身の北日本計測コンサルタントに入社しました。以来、ほぼ一貫してトンネルの計測業務に携わってきました。これまで新日勝や富芦、銀河など数多くのトンネルを担当してきました。計測業務は、地山や支保工構造の異常な挙動や安定性を判断するためのデータを得る「計測A」と、使用している支保部材や施工方法の妥当性を判断し、トンネルの設計・施工を合理的・経済的なものとする「計測B」があります。「計測A」の業務を主に担当し、現場では、施工業者と発注者の間に立ち、中立的立場で円滑な施工をサポートしてきました。

これまで数多くのトンネルを担当してきましたが、この仕事をやって良かったな、と思うことは、一つは施工業者や発注者の方から多くの人に会い、親しくさせていただいたこと。もう一つは大学との関わりができて、人の広がりとともに、知識の広がりも実現できたことです。59歳となり、体力的には少し衰えを感じる日々ですが、計測業務は奥深い仕事であり、やりがいもあります。若手社員にしっかりと技術を伝え、育ててもらうためにも、もう少し頑張ってみようと思っています。

エーティックの熟練技術者
ベテランの技(わざ)はまだまだ健在!
会社を支える熟練技術者をご紹介します!



江渡 享千郎さん
(計測事業室主幹, 64歳)

この会社に入ってから40年以上の勤務になりました。当初は水門の設計などを担当していましたが、その後は計測部門での仕事を中心でした。トンネルではなく、橋や建築施設などの構造物の基礎部分について、荷重などを計測して、円滑な施工を実現させる仕事です。

仕事は計測に加え積算や解析など、かなり幅広いものです。思い出に残っている現場は、白鳥大橋の主塔の基礎業務ですね。あれだけのビックプロジェクトを支える業務ができたことは光栄に思います。また、数年前に完成した創成スクエアの基礎も担当しました。

基礎の計測や解析は完成後には目に見えないものですが、白鳥大橋が今でも多くの車が行き交い、室蘭市のシンボルとなっていることや、創成スクエアで関係者を招いて内覧会を行った時、「ああ、この基礎をやったんだな」と感慨がこみ上げてきました。

入社したころは10数人ほどの社員でしたが、今は多くの社員が働く会社になりました。でも30代から40代の技術者層が薄いため、技術面をサポートするとともに、若い人材を育てることをお手伝いすることができれば、と考えています。



道内トンネル文献あれこれ

令和3年7月~令和3年11月において、専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介します。トンネル関係者の方々へ最新情報を提供いたします。なお、詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。



国道・道道他

- 小林等：一般国道239号 苫前町 霧立峠トンネル工事，北海道土木技術会トンネル研究委員会会報，No.69，pp7-10，2021。



新幹線・鉄道

- 三谷憲司，岡田竜夫，野城一栄，今泉光智哲：開業33年を経た青函トンネルにおける計測の結果と評価，トンネルと地下，Vol.52，No.10，pp49-59，2021。



その他

- 飛弾野大介，塩見武：小断面・複雑形状トンネルにおける設計・施工の取り組み 中川町計測トンネル工事，北海道土木技術会トンネル研究委員会会報，No.69，pp1-6，2021。
- 畑浩二，丹生屋純夫，青柳和平，宮良信勝：幌延深地層研究センターの東立坑における掘削損傷領域の評価，トンネル工学論文集，No.31，pp1-14，2021。



■大学生・高専生ら7名が参加してインターンシップを実施

大学3年生らを対象としたインターンシップを8月23日から27日の日程で開催しました。今回参加したのは、室蘭工業大学3年生2名、北見工業大学3年生3名、苫小牧工業高等専門学校2名の7名です。5日間にわたって、仕事内容についての講義や座談会、そして環境調査などの実務体験やドローンの操縦などを行いました。25日から27日までの3日間は現場見学会や実習を中心に行いました。札幌市内での大規模盛土地質調査や道路の水質調査、覆道の補修設計の現場などを見学しました。また、最終日の27日は札幌市内でドローンの操縦体験をしました。初めてのドローン操縦に、学生たちは「ドローンがここまで普及しているとは知りませんでした。操作も初めは戸惑いましたが、親切に教えてもらって何とか操作することができました」と、ドローン初体験の感想を楽しそうに話していました。



ドローン操縦を初体験

■「事故原因や背景を『自分事』として」-下期安全大会開催

2021年度下期安全大会を9月29日に開催しました。上期に続いて新型コロナウイルス感染防止を念頭にリモートにより実施。舟田社長は「大会を通じて、事故の原因や背景を『自分事』として感じ、有意義な時間として欲しいと思います」と大会の意義を訴えました。引き続き霜出睦安全衛生委員長が過去の災害事例や、災害が発生した場合の初動やリスクアセスメントの手順などを説明し「ヒューマンエラーの背景には安全軽視と不注意があります。人間はエラーをおこす、という前提で常に注意していることが必要です」と不断の注意が必要であることを強調しました。大会の最後では、社員を代表して調査部の安曇涼花さんが「今一度新たな決意と行動を持って、無事故・無災害の実現と送り出し教育、危険予知活動の実施、相互指摘の風土の構築などを進めていきます」と決意表明しました。



「事故の原因などを『自分事』として感じてほしい」と訴える舟田社長

■最優秀賞に木村友昭さん-第29回社内技術研究発表会を開催

2021年度の社内技術発表会が9月29日に開催されました。発表者は、計測事業部の桂川優陽さん(青函トンネルの調査・計測)と木村友昭さん(LECを活用した橋脚モニタリング検証)、設計部道路・河川課の佐々木準希さん(トンネル補修設計業務における設計部門と計測部門のかかわりと今後の展望について)、設計部構造課の鈴木浩司さん(点検業務におけるコンサルタントの役割と課題)の4人。社内の審査委員による審査の結果、最優秀賞に木村友昭さん、優秀賞を佐々木準希さんが受賞しました。最優秀賞の木村さんは「数値データを可視化することで、一般の方に効果的な注意喚起ができれば、と考えました。今後は計測事業部が持っているデータを一元管理して可視化を実現させたいですね」と喜びを話していました。

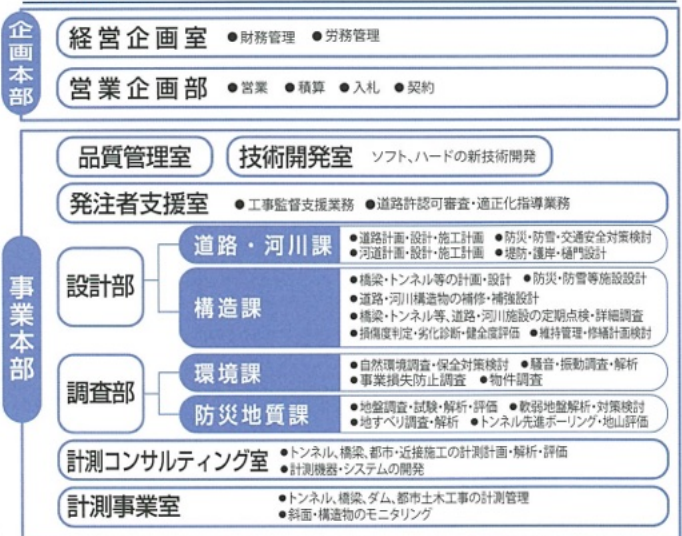


最優秀賞を受賞し、舟田社長から表彰状を受け取る木村さん(左)

株式会社 エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 (本社) 札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 96名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰 令和3年 北海道開発局 局長表彰 受賞
北海道開発局 札幌開発建設部 部長表彰 受賞
北海道開発局 留萌開発建設部 部長表彰 受賞
令和2年 北海道開発局 帯広開発建設部 部長表彰 受賞
令和元年 北海道開発局 札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
北海道開発局 小樽開発建設部 優良工事等表彰 受賞
札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
平成30年 北海道開発局 室蘭開発建設部 優良工事等表彰 受賞
平成29年 北海道開発局 網走開発建設部 優良工事等表彰 受賞
札幌市建設局土木部所管工事に係る設計等優秀履行業者表彰受賞
平成28年 北海道開発局 札幌開発建設部 優良工事等表彰 受賞
平成25年 北海道開発局 函館開発建設部 優良工事・業務表彰 受賞
空知総合振興局 札幌建設管理部 優秀現場代理人・管理技術者表彰 受賞

組織図



編集後記

昨年はコロナ禍による緊急事態宣言が発令されましたが、そうした中であっても、東京2020オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍や、大谷翔平選手のMLBにおけるMVP獲得、そして北海道日本ハムファイターズに新庄剛志氏が監督に就任するなど、スポーツ界で明るい話題が続きました。今年は建設産業にとって明るい話題がたくさんあるよう期待しています。

広報委員会 広報誌部会